

2024年2月

私は東京都杉並区の浜田山病院で理事長を務めている、整形外科医の小瀬と申します。東京慈恵会医科大学を卒業し、同学整形外科医局に入局。大学病院の医師として長期在職の後に退局、2003年10月に浜田山病院の理事長を拝命し、今年で理事長就任から20年を迎えました。

私は父が病弱であったため医師を志しました。そして浜田山病院の理事長となってからは、私が理想とする「赤ひげ先生」を目指し、断らずやさしく心の温かい医療を信条に地域医療に励んでまいりました。病気や怪我で困っている人に貴賤は無く、目の前の患者様に自分の持てる医の力の全てを注ぐ事が医師の使命だと私は考えています。

そもそも医師と患者様は平等であり、患者様にはご自身が受ける治療の選択権があると思います。輸血拒否という理由だけで治療拒否、「助けてください」という患者様を「助けない」というのは私のポリシーに反します。

かねてより、大多数の医療機関においてエホバの証人の方々の手術が拒否されている現状があります。そうした不遇の患者様の救済のために、浜田山病院整形外科では無輸血手術を行なっております。

内科、麻酔科医師とタイアップしながら、主に私が脊椎手術、私と清水医師が人工関節、副院長の間（はざま）医師と竹内医師が骨折などの外傷手術を、今給黎東京医科大学名誉教授が外反母趾を中心とした治療を担当しています。ほとんど全ての整形外科領域手術を無輸血で受けられるとご理解いただいで差し支えません。

無輸血手術を安全に行うためには「細心の注意と、最高の技術を持って、手術時間を最短にし、出血量を最小にし、輸血が必要にならないよう安全に努める」ことが重要です。

さらに手術のリスクヘッジとしては、患者様の安全を担保するため、術後貧血に対する輸血以外の手段として、セルセーバー、アルブミン、エスポー24000等々の使用について、可能であれば術前に患者様ご本人から使用許可をいただくようにしています。しかしながらこれらの使用許可をいただいても、実際には使用する事態に至ることはほとんどありません。

エホバの証人の患者様は手術に深いご理解と造詣があり、これらの使用を承諾される方が多いように思います。

また、もともと術前に貧血がある方には、術前に一般的な貧血改善薬による治療を施行した後に手術を受けていただくようお勧めしています。私達はこのようにして考えうる様々な方法を駆使して万全の体制をもって無輸血手術に臨んでおりますが、最も高度な医療技術を持つ大学病院や高次医療機関にこの無輸血手術を牽引していただけたらと思っています。

前述の通り、当然の事ながら私達の行なっている整形外科手術において、術後に輸血が必要になったケースは 1 例もありません。

末筆ながら、私は 20 年以上にわたり無輸血手術を行ってまいりました。その経験から、今や整形外科のほぼ全ての手術で無輸血手術は不可能ではない、と確信しています。

医療法人社団 愛宝会
浜田山病院 理事長
小瀬 忠男

